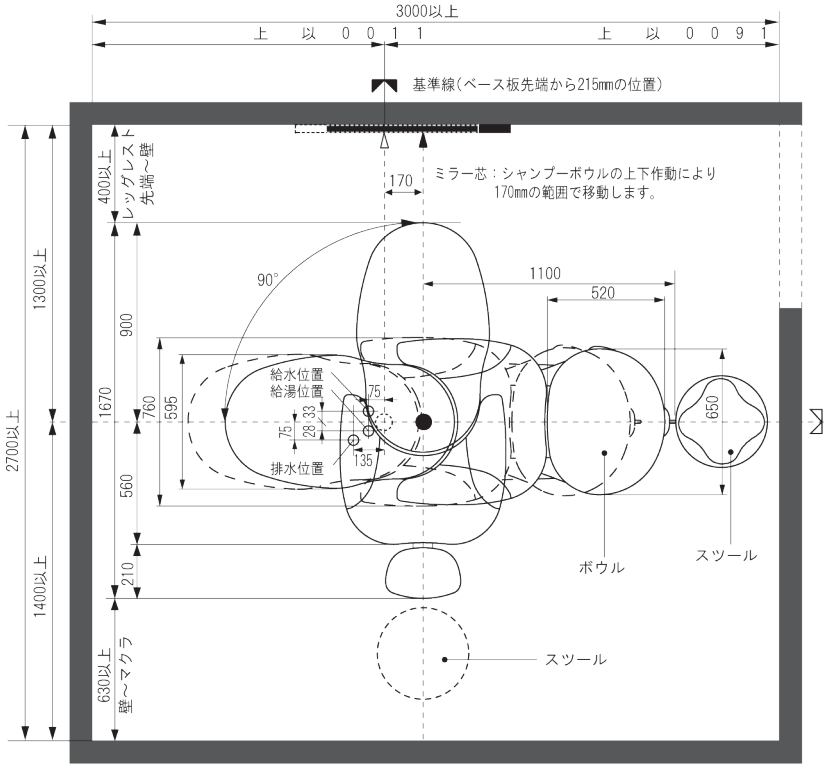
設置の前に

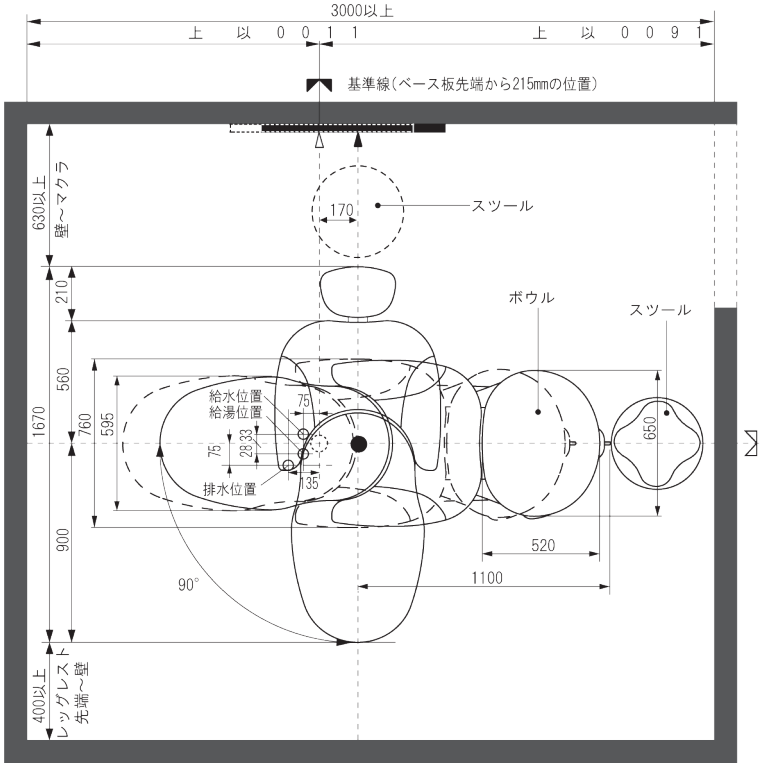
■全体レイアウト図 <シートを90度回転させて使用する場合>

〈EX-YM2XL
（時計回り）の場合〉



最低位置
最高位置
● 最低位置回転芯
◌ 最高位置回転芯
基準線
中心線

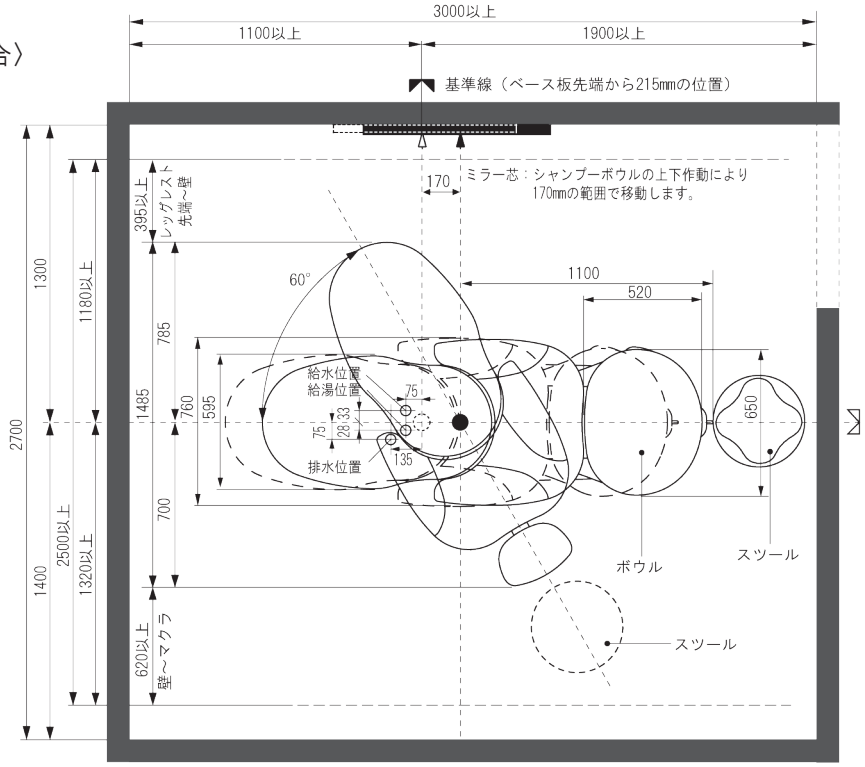
〈EX-YM2XR
（反時計回り）の場合〉



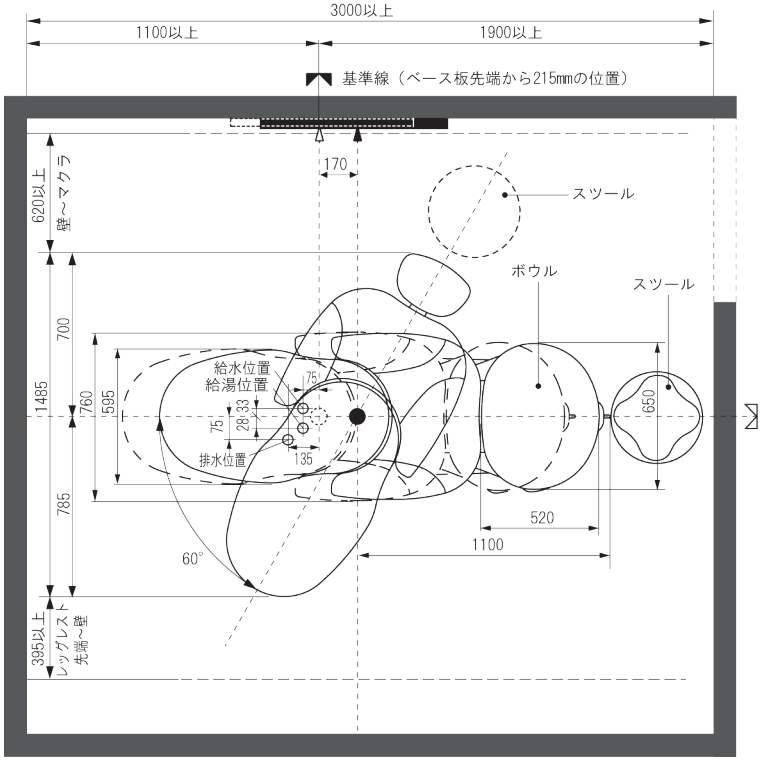
注意：90度使用の場合は、最低3000×2700以上の寸法を確保してください。確保できない場合は、お客様の足やスタッフの背中が壁に当たる場合があります。

＜シートを60度回転させて使用する場合＞

〈EX-YM2XL
（時計回り）の場合〉

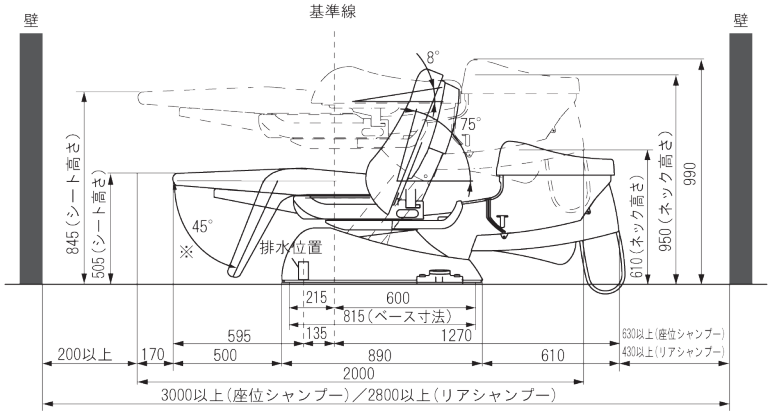


〈EX-YM2XR
（反時計回り）の場合〉



■側面図

※図はEX-YM2XLA、EX-YM2XRA
の場合です。



■電源について

単相100V電源工事を行い、定格15A以上の100V用アース付専用コンセントを設置してください。
【※本体定格消費電力　340/410W（50/60Hz）、推奨コンセント：松下電工（株）WK3821】

■接地工事について

万一の感電における事故防止、および制御回路の耐ノイズ性を向上させるため、
必ず本製品専用のアースを設けてください。

●D種以上の接地工事を行う

電気機器にはD種以上の接地工事を行うことが法令で義務付けられています。
D種接地工事を必ず実施してください。なお、接地工事は必ず電気工事士の資格を持った方が行ってください。

●次のようなところにはアース線をしないでください。

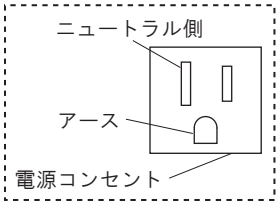
○水道管：配管の途中が塩化ビニル管の場合、アースされません。
○ガス管：爆発や引火の危険性があります。
○電話線・避雷針：落雷時、大きな電流が流れ危険です。

⚠ 注意

電源プラグの取扱い
電源プラグは、ほこりの付着がないことを確認し、ガタつきのないように刃の根元まで確実に差し込んでください。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は感電や火災の原因となります。

電源コードの取扱い
電源コードに無理な力をかけたり、加工、ねじり、曲げなどしないでください。
また重い物を乗せたり、挟み込んだ場合、電源コードが破損し、感電や火災の原因となります。

コンセントの取扱い
コンセントは単独で使用し、必ずアース端子付きコンセントを使用してください。
たこ足配線にすると、分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

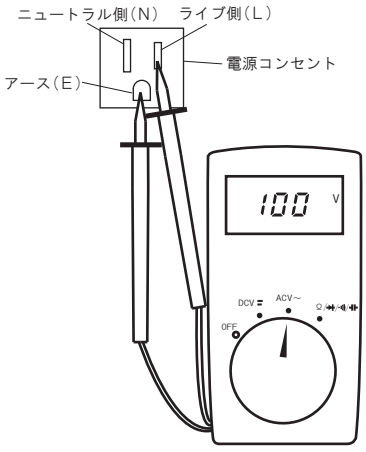


点検するときは電源プラグを抜く
YUME DX本体内部の点検や調整を行うときは、電源プラグを抜いてから行ってください。
通電状態で電気部品などに触れると感電の原因になります。

■電源コンセントの点検

床から立ち上げた電源コンセントが正しく配線されているか
以下の方法により確認してください。
※正しく配線されていない場合、感電する恐れがありますので速やかに改善してください。
　ただし、改善する場合は、必ず電気工事士の資格を持った方が行ってください。

・ライブ(Ｌ)とアース(Ｅ)間及びニュートラル(Ｎ)とアース(Ｅ)間の電圧を測定
①(Ｌ)と(Ｅ)間の電圧が１００Ｖ付近(最大±１０Ｖ)になっていることを確認してください。
②(Ｎ)と(Ｅ)間の電圧が０Ｖ付近になっていることを確認してください。
※②場合に(Ｎ)と(Ｅ)間で数Ｖの電圧が発生する場合がありますが、動作に支障はありません。



Ｌ:ライブ(非接地極側)
Ｎ:ニュートラル(接地極側)
Ｅ:アース(接地極線)

※検電器や検電ドライバーを用いて確認も可能です。

■床面について

○床面材料・床面仕上げ材は、防水材もしくは防水加工したものを使用してください。
○この製品は重さが最大205kgあります。設置床部分には十分な補強工事を行ってください。
○床面は必ず水平を確保してください。
○床面は、取付部分に凹凸がないよう平滑にしてください。
○配管立上について

給湯・給水	Rc1/2“	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法　給湯：50㎜ 給水:50㎜
排水	ＶＵ40/ＶＰ40	床面立ち上げ配管	立ち上げ寸法　60㎜

○床仕上げがタイル等の素材の場合、YUME DX本体取付時のボルトの締め込みにより、「割れ」が発生します。
この場合、製品固定位置図および型紙を参考に、床と接触している取付部分は合板、モルタル等の素材に変更してください。
なお、本体と床との接触面はφ50のアルミ板、7ヶ所です。ベース全面が床と接触していませんので、施工時は注意してください
○床面には以下の強度が必要です。

木製床の場合	ベニア厚は30㎜以上(15㎜板2枚重ね以上)、床補強材は300㎜ピッチ以下です。
モルタル床の場合	モルタル厚は50㎜以上です。
特殊な床(石張り等)の場合	設置位置に上記の強度を確保した土台が必要です。

■漏水対策について

○階上設置される場合は、必ず防水処置（防水工事、ステンレス綱板製等のパンの設置、もしくは漏水センサーの設置等）を行ってください。
○配管立ち上げ部の開口部と配管との隙間は必ずコーキング剤等でふさいでください。

■配管施工について

ここに書かれた事項は、配管施工に関する重要な内容です。
この内容を十分にご確認の上、正しい配管工事を行ってください。

○本製品を設置されるときは、『タカラグループ給排水設備工事標準』、および本書の『配管施工上の注意』に基づいて配管施工を行ってください。注意を怠って配管されますと、ミキシングが満足に働かず、一定温度のお湯が得られないことがあります。
○本製品は室内専用です。設置は必ず室内に行ってください。

■配管施工上の注意

○給水（一次給水）配管
・市水道直圧管の場合、各水道局指定の工事店に依頼し、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
・市水道直圧管以外（高架水槽下り給水管等）の場合、その地域の“水道局施工基準”等の法規に従って工事を行ってください。
○給水配管には錆の発生する管材料は使用しないでください。
原則としてVP管または、その地域の指定材料をご使用ください。
○給湯配管には原則として脱酸銅管、Lタイプを使用してください。
○給湯・給水配管は原則として同径同圧にしてください。
○管の切断面は必ずリーマをかけてバリ取りをしてください。
○空気溜りの原因となる逆Ｕ字配管（鳥居配管）は避けてください。
○給湯・給水管内の配管くず・ゴミ・砂・油はトラブルの原因になりますので、必ず除去してから配管接続をしてください。
○配管接続を行い、通水テスト後にストレーナーおよびシャワーヘッドの掃除をしてください。
○排水管の勾配は、排水管径φ75未満は1/50以上、φ75以上は1/100以上にしてください。
○湯・水を逆配管しないでください。
逆配管は水栓金具の温度調節不良の原因になり、やけどの危険があるなどトラブルの原因となります。
○給湯機からの給湯配管は、抵抗を少なくするため最短距離にしてください。
長くすると温度変化やお湯の出が悪くなる原因になります。
○配管後は、必ず保温材を巻いてください。
○温水ボイラーの配管について
・給湯本管・給水本管は原則として同径同圧にしてください。
・温水ボイラー設置については、必ず専門業者に施工依頼してください。
○器具にヘアキャッチャーが内蔵されています。

使用条件

■使用給湯・給水条件

使用水	・上水道水（飲料不可の井戸水やサビ・砂を含んだ水は使用しないでください。） ・硬度が80ppm以上の場合は、機器本体へのスケール詰まりを予防するため、軟水器による処理を行ってください。また、飲料可能な井戸水の場合、シャンプー時に泡が立ちにくい場合がありますので、同様に軟水器による処理を行ってください。
給湯・給水圧力	・0.1～0.4MPa(1～4kgf/cm^2)の範囲にしてください。また、複数台での使用の場合でも0.1MPa(1kgf/cm^2)以下にならないようにしてください。 ・給水圧力≧給湯圧力にしてください。 ・給湯圧力と給水圧力の差は、0.2MPa(2kgf/cm^2)以内にしてください。
機器への給湯温度	・給湯温度は80℃以下にしてください。 ・使用シャワー温度より10℃以上高くしてください。
給湯機	・給湯機は、理美容サロン専用の暖流システムのご使用をおすすめします。その場合の施工方法は、『タカラ同時給湯システム暖流工事の手引き』を参照してください。 ・瞬間湯沸かし器をご使用の場合は、16号以上を使用してください。（洗髪能力は瞬間湯沸かし器１台につき、YUME DX 機器1台です。） ・貯湯式ボイラーをご使用の場合は、貯湯式ボイラー説明書を参照してください。 ・給湯には蒸気を使用しないでください。

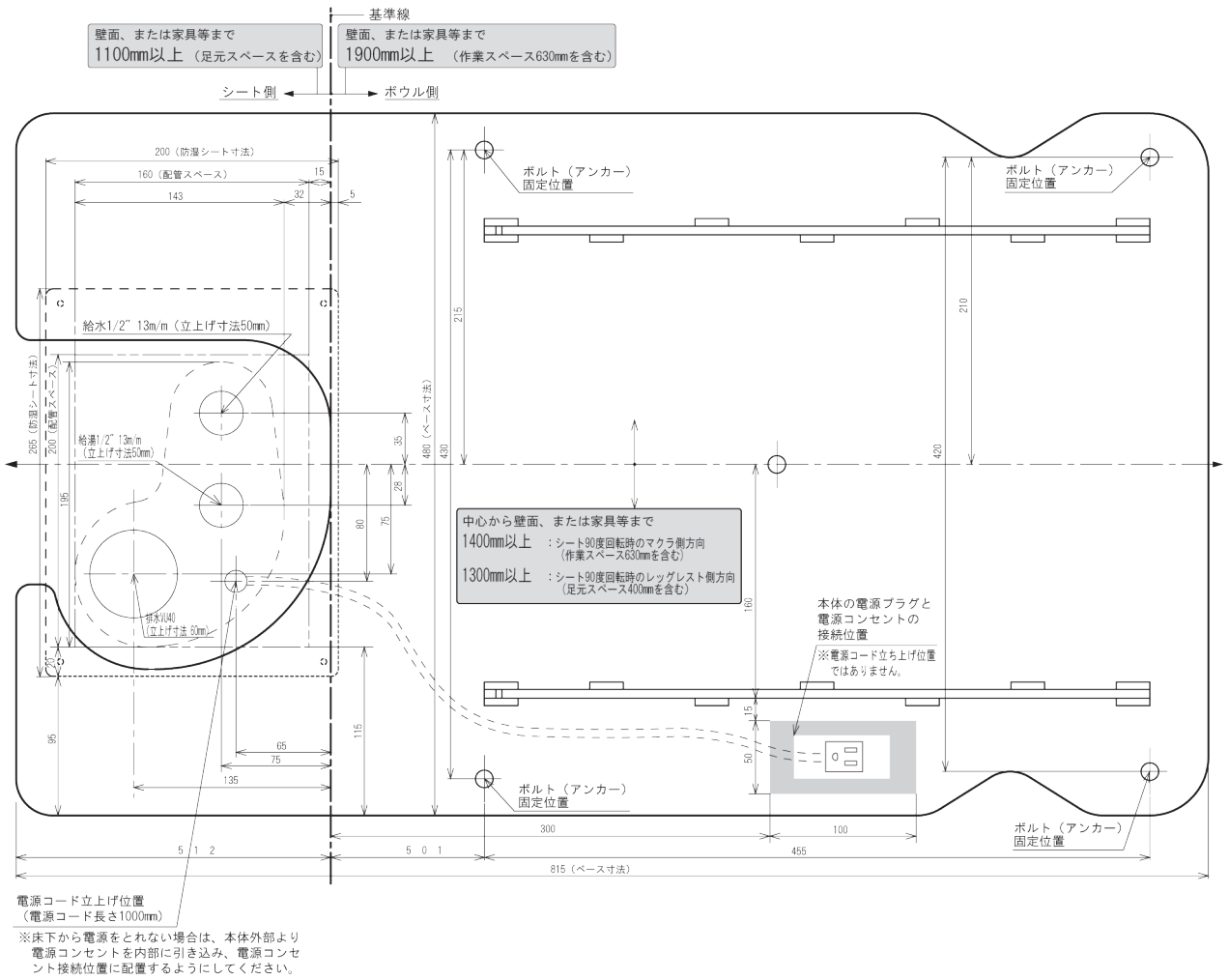
製品固定位置（施工配管図）

■床面がタイルおよびガラス仕上げの場合

床面仕上げがタイル等の素材の場合、本体設置時のボルトの締め込みにより、「割れ」が発生します。
この場合、取付部分は合板、モルタル等の素材にしてください。

1　ベース外形ラインおよびチェアマウントフレーム床設置部に沿って、内側のタイルまたはガラスをはく離します。このはく離作業は入念に行ってください。はく離部分が見える可能性があります。

2　はく離した部分の内側にコンパネを敷きます。コンパネは、周囲のタイル、ガラスよりも高くなるようにしてください（2～3㎜以内）。



※床下から電源をとれない場合は、本体外部より電源コンセントを内部に引き込み、電源コンセント接続位置に配置するようにしてください。